

技術士交流報告

第7回北東3支部技術士交流研修会報告

(社)日本技術士会北海道支部 事務局長
技術士（建設／総合技術管理部門） 大谷 諭

1. はじめに

平成16年11月26日、第7回北東3支部技術士交流研修会が仙台市内のかんぽヘルスプラザ仙台で開催された。これまで東北支部、北陸支部、北海道支部がそれぞれ持ち回りで開催してきたが、今年は3巡目に入り東北支部が担当した。北海道支部からは大島支部長、伊藤センター会長はじめ9名が参加した。

今年度の研修会のテーマは、「地域の環境保全技術の現状と課題」～自然と共生する社会を目指して～でしたが、本年6月に示された「技術士ビジョン21」のサブタイトルにも「社会の利益と環境の保全に貢献する技術士」とあるように、環境の保全は21世紀の技術士に課せられた大きな課題であり、その意味でも極めて今日的なテーマと言えるものです。

以下研修会の概要を報告いたします。



開会挨拶する吉川謙造東北支部長

2. 研修会プログラム

研修会のプログラムは下記のとおりである。

○開会の挨拶（12：45～12：50）

(社)日本技術士会東北支部長 吉川 謙造

○来賓挨拶（12：50～12：55）

(社)日本技術士会専務理事 竹下 功

○各支部近況報告（12：55～13：25）

東北、北陸、北海道支部 事務局長

○特別講演（13：30～14：30）

「環境と経済との統合に向けて

～技術者に求められる技術統合～」

環境省東北地区自然保護事務所長 西宮 洋

○研修発表（14：45～17：25）

「NPO法人あぐりねっと21の活動について

～農地の生物多様性を目指して～」

(株)仙台土木設計 佐々木甲也

(東北支部／農業)

「鬼首道路におけるエコロード追跡調査結果」

(株)福山コンサルタント 宮崎 悟

(東北支部／建設)

「閉鎖性水域における水域環境問題と

その解析手法」

(株)アルファ水工コンサルタンツ 今津 雄吾

(北海道支部／技術士補)

「海の環境保全～海からの恵みを海へ還元～」

(株)ドーコン 吉野 大仁

(北海道支部／水産、建設、総合)

「ゼロからの森づくり20年～自然再生の試み～」

(株)グリーンシグマ 目黒 修治

(北陸支部／建設、総合)

「地球環境保全と技術士の役割」

(株)環境コンサル 津田 直昭

(北陸支部／上下水道、衛生工学)

○閉会の挨拶 (17:25～17:30)

(社)日本技術士会東北支部

副支部長 今井 宏信

○交流会 (17:45～19:45)

3. 特別講演

環境省東北地区自然保護事務所長の西宮氏より行政の立場から「環境と経済との統合に向けて～技術者に求められる技術統合～」と題して講演が行われた。

環境規制・環境配慮は経済活動に悪影響を及ぼすと考えられてきたが、歴史的に見れば結果として公害防止技術等を著しく進歩させ、技術革新を促すという好循環をもたらした。

「環境と経済との統合」は、従来の「環境と経済の調整」という経済が環境に「配慮」することで達成されるのではなく、環境保全自体が経済活動に組み込まれたひとつの目的であることを示している。

今後の社会は、地球温暖化問題をはじめ社会問題としての人口減少、少子高齢化など私たちが今まで経験してこなかった様々な問題に直面し、それを解決していかなければならない。これからの技術者は、専門とする分野のみに埋没することなく、環境問題など社会が要求する需要や解決策に対して自身の技術をどのように適応させていくかを幅広く考え、市民や NGO などとの連携も図っていく必要があると、西宮氏は強く訴えていた。



発表する今津雄吾氏 (北海道支部)

4. 研修発表

東北支部の佐々木氏は、「NPO 法人あぐりねっと 21 の活動について～農地の生物多様性を目指して～」と題して、自身が参画している NPO 法人「あぐりねっと 21」の活動を紹介し、個性ある農村・魅力ある農村環境創りと農業農村の活性化を図る上で、NPO 法人の可能性を示唆した。

宮崎氏からは、「鬼首道路におけるエコロード追跡調査結果」と題して、エコロードとして整備・建設された鬼首道路(平成 8 年 8 月供用、延長 13.7 km)において、動植物に対して実施した対応策の効果を計測することを目的とした追跡調査の概要が報告され、エコロード事業の成果と課題が明らかにされた。

北海道支部の今津氏は、「閉鎖性水域における水域環境問題とその解析手法」と題して、ホタテガイの養殖が盛んなサロマ湖で平成 14 年に実施された総合的な現地調査結果及び既往の知見を基にして開発した生態系数値モデルの有用性と課題について報告した。

吉野氏からは、「海の環境保全～海からの恵みを海へ還元～」と題して、海岸の汀線付近に 100%発酵魚かすを埋設し、磯焼けに覆われた貧栄養の海に人工的に栄養を与えようとする試みについて報告がなされた。



発表する吉野大仁氏 (北海道支部)

北陸支部の目黒氏は、「ゼロからの森づくり 20 年～自然再生の試み～」と題して、水田を山土で 1m ほど盛土した広大な 24 ha の裸地(工場用地)における「森づくり」の経過について 20 年にわたる追跡調査

結果に基づき報告した。

津田氏は、「地球環境保全と技術士の役割」と題して、地球環境に関わる諸課題と社会における環境配慮の動きを分析し、取り組みが特に遅れている中小企業をはじめとする事業者に対して、技術士がその経験を生かして環境保全技術、人材教育・育成、環境対策に全面的に協力して持続可能な社会づくりに協力すべきであると提言された。

5. 交流会

研修会終了後、会場を移して交流会が開催された。出席者は30名弱と少々寂しい感じもありましたが、新潟県中越地震の被害状況の話などでは真剣な技術談義が交わされていました。また、技術士全国大会（札幌）の思い出話にも花が咲いていました。

6. おわりに

研修会当日は東北支部主催のイベントが他に2つ重複（日程調整の不便とのこと）したため、出席者は60名程度と少な目でした。

本研修会も各支部持ち回りで3巡目に入り、3支部交流の場としてすっかり定着した反面、マンネリ化の懸念も一部には出ているようで、交流会ではそのような意見も出ていたようです。

研修会の継続を前提にその内容を見直すことも必要なことかも知れません。

今回の研修会の開催に当たって、企画、準備、運営にあたられた東北支部の関係者の皆様に心より敬意を表します。